





審査結果報告書

2019年1月30日

主査氏名	岡本浩嗣	
副査氏名	青山直善	
副査氏名	高橋倫子	
副査氏名	西山和利	

1. 申請者氏名 : DM15020 根本照世志

2. 論文テーマ :

Impaired Flow-mediated Dilation and Severity and Vulnerability of Culprit Plaque in Patients with Coronary Artery Disease

(冠動脈疾患患者における血流依存性血管拡張反応障害と冠動脈病変の重症度およびプラークの脆弱性との関連についての検討)

3. 論文審査結果 :

申請者は冠動脈疾患患者に於いて、血流依存性血管拡張反応(FMD)障害と冠動脈病変の重症度およびプラーク脆弱性の関連性を研究した。対象として冠動脈形成術を施行された245例の安定狭心症患者を前向きに登録した。方法として、FMDの測定を上腕動脈においてエコーで行い、低FMD群、高FMD群に分けた。冠動脈造影で評価した冠動脈病変及び光干渉断層撮影で評価したプラーク性状を両群で比較した。結果として、左冠動脈主幹部病変の発生率は低FMD群で高く、低FMDは独立危険因子でもあった。加えて低FMD群では冠動脈責任病変の最小内腔面積が小さかった。一方多枝病変の割合や冠動脈プラークの性状は両群間で有意差を認めなかった。結論としてFMDが低い患者は左冠動脈主幹部病変の発生率が高く、冠動脈最小内腔面積が小さいことが判明した。以上を報告した本研究論文はFMDが重度の冠動脈疾患を有する患者を同定できる可能性を示唆した臨床的にも優れたものであり、学位論文として相応しいものとしてここに判断した。